「地質学会の JABEE と CPD に対する取り組み」

日本地質学会　理事・副会長、地質技術者教育委員会副委員長
応用地質株式会社
佐々木　和彦

（1）これまでの日本地質学会の JABEE に対する取り組み

①JABEE の地球・資源分野において、幹事学会である資源・素材学会、日本応用地質学会、日本地下水学会とともに分野運営委員会を構成し、主に JABEE の継続審査への審査員の派遣や分野別の審査内容の検討などを行ってきた。

②しかしながら、地質系の大学が 40 を超えるのに対し、JABEE の認定プログラムを運用する大学は 9 大学にとどまっており、分野運営委員会および日本地質学会としての JABEE の周知・普及活動は十分とは言えない状況が続いていた。とくに学会内での JABEE の周知・普及は不十分であり、それを支える地質技術者教育委員会の活動も活発だったとは言えない。

③そのため、2019 年 5 月に地質技術者教育委員会を再構成して活動を高め、学会内での JABEE に対する周知・普及を行うことにした。そして、まず学会の運営執行部への認識を深めてもらうべく、2020 年 2 月 12 日に本日ご講演の JABEE の三田専務理事に執行理事会前に JABEE についてのお話をしていただいた。この時は、これまた本日ご講演の山口大学の坂口教授にもお話しをお願いした。さらに学会内の理解を深めるために、2020 年 9 月に開催予定であった学術大会の場において JABEE のシンポジウムを計画したが、コロナ禍のため延期となったので今回のオンラインシンポジウムを企画・開催することとした。

④また、2020 年度の JABEE 継続審査においては、地質技術者教育委員会からこれまで以上に多くの審査研修員を推薦するなど、JABEE に対する取り組みを強化している。

（2）これまでの日本地質学会の CPD に対する取り組み

①企業会員が CPD 単位を取得するため、認証機関である土質・地質技術者生涯学習協議会に加盟した。

②しかし、同協議会のジオ・スクーリングネットの活用は、関東支部などの極一部に限られ、会員サービスが充実しているとは言えない状況であった。

③そのため、前述した地質技術者教育委員会を再構成させ、ジオ・スクーリングネットの活用方法を学会内、とくに支部に周知し、CPD 単位認証をやりやすくした。

（3）今後の取り組み

①日本地質学会は地質学に関する我が国最大の学会であり、大学教育を担う多くの大学教員が会員となっている。したがって、今回のような普及活動を展開して、大学教育における JABEE の必要性を理解していただくようにする。

②地球・資源の分野運営委員会の活動や JABEE 継続審査員推薦に、これまで以上に参画する。

③企業会員を中心とした CPD 単位がより取得できるような情報伝達や企画を展開する。

④就職先としての企業に JABEE 修了生の優遇や学会が行っている CPD 活動について説明する機会を設け理解を深めてもらう。そのため、大学と企業の橋渡しとなる 2020 年 12 月に刊行したキャリアビジョン誌の活用も考える。

以上